2023-7-16　千葉県立関宿城博物館　尾崎　晃　さん

木下と関宿の共通点

　古来から、舟運を利用して発展

　近世は利根川流域に河岸が発達

　近代以降も蒸気船の寄港地として発展

　水陸両面での交通の要諦

　かつては下総国屈指の町場

　木下や関宿がにぎわった利根川水運

　⇒利根川東遷の経緯とその目的や影響

　一方で人や物の移動を監視する関所の存在

　⇒関所の機能と役割を紹介

1，利根川東遷の経緯

　　東遷の目的　洪水対策と新たな交通網の整備

　　東遷の経緯　天正4年（1576）～承応3年（1654）の約７０年間

　　　第1期　天正４年（1576）～文禄3年（1594）

　　　　　　　　小名木川・新川を開削　会の川を締め切り

　　　　　　　　利根川本流は川俣から浅間川に抜けるルートに流路を変更

　　　第2期　元和7年（1621）～寛永年間（1624～43）

　　　　　　　　佐波から栗橋付近までの新川を開削　渡良瀬川と合流

　　　　　　　　利根川本流は権現堂川に向かい、庄内古川を経由し江戸川に流入

　　　第3期　寛永期（1624～43）

　　　　　　　　庄内古川の締め切りと江戸川の開削

　　　第4期　寛永12年（1635）～承応3年（1654）

　　　　　　　　赤堀川の開削　元和7年（1621）　寛永１２年（1635）　承応3年（1654）に拡幅工事

　　　　　　　　常陸川と通水し本流は銚子に流入

　　幕府の功績を再考

　　　関宿城落城後に旧梁田氏家臣に関宿～佐倉の通航剣承認

　　　⇒栗橋から関宿城経由、佐倉間の水路が通水なくして不可能

　　　北条氏はある程度東遷の志向を持っていたのか？

2，東遷の影響

　　　江戸を中心とした全国的な交通網の整備が完成

　　　関東は利根川水系を中心とした水運網の再編

　　産業への影響

　　　江戸中期（元禄期）以降、各地の河岸が発達

　　　関東の新田開発の進展

　　　関東の地場産業（醸造業・繊維業他）の発達

　　環境への影響

　　　水運を利用しやすい環境＝水害を受けやすい環境

　　　利根川東遷は新たな洪水を引き起こす要因に

3，人や物資の往来と関所

　　関所設置の経緯

　　　定船の設置

　　関所の場所

　　　江戸川・権現堂川・逆川の合流地点　江戸川右岸

　　関所の構造

　　　門・番所・船着き場

　　関所の役割

　　　「入り鉄砲に出女」の監視

　　　水陸の旅人と船の積み荷を監視

　　改めの実態

　　　改めの業務の民間委託

　　　原則と本音　近在の者にやさしい改め

　　旅の流行と関所

　　　関所は閉ざさず所から通す所へ

河道の変遷

